

## みやぎ総文2017を終えてのお礼

第41回全国高等学校総合文化祭「みやぎ総文2017」自然科学部門大会が、皆様のご協力のもと、成功のうちに閉会式を迎えることができました。

「集え伊達の地に 創造の短冊に思いをのせて」という大会テーマのもと、「研究発表」、「ポスター発表」、「生徒交流会」、「巡検研修」などたくさんの内容が3日間の大会日程の中で行われました。閉会式で、研究発表、ポスター発表の表彰を行いました。表彰を受けられなかった学校も含めてすべての学校がこれまで積み重ねてきた成果をしっかりと発表されたと思います。これからは、全国の高校生がさらに研究を続け、来年の長野大会でまた新しい成果をぜひ発表してもらいたいと思います。

この大会に参加した高校生の皆さんに、お願いがあります。一つは、宮城の地で見たこと、聞いたこと、学んだことをそれぞれの出身地に帰り、県の報告会などを通して紹介してもらいたいということです。参加した高校生の皆さんが生の声で全国の様子を伝えることで、自然科学を愛し、研究に取り組む高校生がさらに増えていくと思います。そして、全国に自然科学の輪が広がると思います。ぜひ、みやぎ総文祭で見たこと、聞いたことを、積極的に紹介していただくようお願いいたします。

もう一つのお願いは、閉会式でお願いをしたキーワード、「Go Forward 前へ進んでいこう」です。高校生の皆さんは、自然の力の大きさと人の微力さを、震災の爪痕を見ながら感じたのではないのでしょうか。そして、災害から6年が経っているにもかかわらず復興がまだまだの状況を、実感したと思います。しかし、被災された方々は、その災害を乗り越えて、今まさに前に進んでおられます。それを支えるのが、科学技術であり、人です。その人は、高校生の皆さんです。この大会を通じて、皆さんそれぞれが日本の未来を支えるのだという気概を持ち、未来に向かい前進してもらいたいと思います。ぜひ皆さんに、この二つのことをお願いしたいと思います。

そして、自然科学部門大会は大成功のうちに終えることができましたが、その最大の功労者は、宮城県の高校生の皆さんです。暑い中を各会場の入り口で案内をしたり、大会運営を支えてくれた高校生の皆さん、本当にお疲れ様でした。様々な場所で緑のTシャツの高校生の姿が見られました。宮城県の高校生の皆さんが全国の高校生を温かく迎えてくれたことが、大会が成功した一番の原動力だと思っています。

最後になりましたが、この大会の開催に向けて準備を進めてこられました宮城県実行委員会の皆様、特に斉藤校長先生、千葉先生をはじめとする宮城県の役員の先生方、多大なご支援をいただいた地域の皆様、そしてこの自然科学部門の開催に尽力をいただきましたすべての皆様に改めて感謝を申し上げます。

来年は長野県で「2018信州総文祭」が開催されます。自然科学部門は、茅野市の諏訪東京理科大学を会場として開催されます。来年は、長野で皆様とお会いしましょう。

本当に皆様ありがとうございました。

平成29年8月10日

高等学校文化連盟全国自然科学専門部会長  
島根県立浜田高等学校校長  
今 井 靖